

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	オルオルネクストかべ		公表日		2026年3月1日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		プログラムの時間、パーティションで区切り、フリースペースと分けて使う工夫をしている	東京都に申請した基準通りの冊数と、定員も基準上の10名定員で運営しています。児童の活動内容に合わせて机を移動したり、パーティションを使用して活動スペースの確保できるように配慮しています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	1		課題：もう少し職員がいると良い 改善点：東京都の基準を満たした職員配置をしています。児童の個別度合いに合わせて職員数を増やしての対応もしています。今後も基準通りの適切な配置に努めます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		・スケジュールや床のマットの色等、視覚的にわかりやすく配置している。	課題：手洗い場が1つしかないので改善が必要だと思う 改善点：入口付近はバリアフリーとなっています。室内は段差がなく安全に努めています。活動に合わせてスケジュール提示、マットの色で整列場所などを視覚的にわかりやすく構造化しています。手洗い場が1つしかなく混雑するため、除菌シートを等使用しスムーズな手洗いができるように改善しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8			集団で過ごしている場のため、しっかりと日々の清掃を行い、清潔で心地よく過ごせるようにしています。こまめな換気や消毒を行い、感染対策にも取り組んでいます。また、事業所内だけでなく、送迎車内も毎日消毒をしています。児童の活動に合わせて机の配置を変えながら活動が行いやすいよう環境調整に取組んでいます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8			児童様のニーズに応じて相談室を使用することが可能です。個々に応じた必要な対応を柔軟に取り入れ、クールダウンや学習、話し合いの場、休息等で使用できる環境になっています。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8			PDCAサイクルをもとに児童様の支援目標に対しての振り返り見直し、目標設定を行っています。職員にモニタリング内容を周知し、支援目標の見直し等の
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8			保護者様向けの評価表結果を職員全員に周知し、課題点や改善点を共有し、改善に向けて取り組みをしています。今後も業務の改善に努めます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・しっかりと朝礼をし、引き継ぎノートも活用しています。 ・ミーティングや連絡ノートを通して意見等を共有している。	課題：副業の関係上、勤務時間の都合で中々参加できない 改善点：支援に入る前に職員全体でミーティングの時間を設けています。職員一人一人が意見を出し合いながら業務改善に努めています。ミーティングに参加できない職員に関しては引き継ぎノートを活用しながら共有に努
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8			法人内では職員間のジョブローテーションを行い、気付きや改善点、参考になったこと等を話し合い業務改善に努めています。今後は第三者評価の導入も検討し、
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		・スタッフ研修、アナログ研修毎月1回あります	課題：副業の関係上、勤務時間の都合で中々参加できないことが多く参加したい。 改善点：月2回全職員を対象とした専門的な知識を学ぶ研修と、プログラム向上のための研修を行っています。また、常勤研修や全職員対象のレベル別研修も実施し、支援の向上に努めています。参加できなかった職員に対しては資料を配布し、研修内容をお伝えしています。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8			支援プログラムはそれぞれの児童のニーズに基づき専門的な職員により作成しています。支援プログラムはホームページにて公表しています。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8			契約前の聞き取りの際に保護者様へ児童様の様子をアセスメントさせて頂いています。ニーズや課題を分析した上で支援計画を作成し、保護者様の同意を得てから支援を行っています。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8			支援開始前の日々のミーティングにてこどもの最善の利益を考慮した検討が行われています。全職員が共通理解を持てるよう確認をしながら話し合いを進めています。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8			計画書を職員間に共有できるように共有ファイルを作成しています。計画に沿った支援の大切さを教えながら理解に繋げていきます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8			支援においてフォーマルなアセスメントとインフォーマルなアセスメントを使用し、適応行動へのアプローチをするよう心がけています。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		個別支援計画において「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」を目的として、ご本人の課題に合わせた支援内容を設定しています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		日々の支援の中で振り返りや共有をしながら、児童の課題の状況や見直しをしています。児童の成長に合わせながらプログラム内容の立案をチームで行っています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		毎日のプログラムが固定化しないよう日替わりのプログラムを実施しております。どのプログラムも療育的観点から児童の発達に合わせて柔軟に設定を見直ししています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	・外遊び時や室内レクの時など集団遊びを入れています。	面談の際には児童の状況に合わせて集団と個別での各視点で個別支援計画書を作成し、日々の支援を行っています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	・支援の連携プレーは素晴らしいと思います	課題：副業の関係上、勤務時間の都合で中々参加できない 改善点：支援開始前に職員間でミーティングを行い、その日の支援について内容確認、引継ぎ事項確認、役割分担等を決めています。支援においてチームでの連携は必須のため、しっかりと確認しあいながら取り組んでいます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		課題：参加できないことが多い 改善点：支援終了後は送迎もあり振り返り等の時間を設けることが難しい状況です。そのためケース記録や引継ぎ簿等に記録を残し、翌日のミーティング時に共有できるよう努めています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		日々の支援内容や児童の様子をケース記録として記録に残しています。記録は児童との関わりや支援への検討・改善へ繋がっています。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		定期的に保護者様とモニタリングや相談援助を行い、支援目標や支援内容の見直しを行っています。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8		ガイドラインの4つの基本活動「自立支援と日常生活の充実」「創作活動」「地域交流の機会の提供」「余暇の提供」を複数組み合わせ支援をプログラム活動やイベント活動等を通して行っています
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	・ホワイトボード等を使って、児童が理解しやすいように工夫している	事業所を児童様と共につくっていくことを目標に児童へ様々な選択ができるよう支援を提供しています。イベントも児童のリクエストのあったものを取り入れたり、様々な支援の場面で児童の考える力、決定する力を身に付けられるようみんなで話し合っ決めて決める場を設けています。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		サービス担当者会議には児童発達支援管理責任者が参加し、児童の状況確認、共有等をしなが支援へ役立てています
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		主治医や協力医療機関、障害福祉施設、学校等との連携体制を整えています。今後はその他の関係各所との連携も進めての支援を心掛けていきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		保護者様や学校から年間行事予定や下校時刻表を頂き把握しています。送迎時には学校の担任へ児童の調子や出来事の確認をさせて頂いています。トラブルが発生した際には適切な対応をとると共に、保護者様へご連絡させて頂いています。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8		契約前に保護者様からの聞き取りで就学前の情報を頂いています。また、必要に応じて保育所等に児童様の様子を見学、聞き取りをさせて頂いています。相談支援事業所や前事業所とも連携を図っています。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	1	課題：ネクストへの利用児童は今まで小学生までしかいませんでした。 改善点：学校卒業後の移行先へ、今までの支援情報を提供し、連携を図るよう努めています。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		児童発達支援センターは地域にないため、相談支援事業所の主事が代わりに担っていると考えています。その為、主事と定期的に意見交換を行っています
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8	・週に1回学童との交流があります ・公園遊びの時、地域のこども達と一緒に遊びます	事業所の隣に放課後児童クラブを併設しているため、毎週火曜日に交流の機会を設けています。また地域のお様とも屋外活動を通して積極的に関わり、公園内で一緒に遊ぶ機会を設けています。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	2	青梅市の放課後等デイサービス連絡協議会が開催された際は参加させて頂きました。今後も協議会等へ参加をします。

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	8			送迎の際や連絡帳、電話や面談等で児童の様子や課題、発達をお伝えし共通理解に努めています。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8			半年に一度、保護者様同士の連携を目的として茶話会や事業所公開、親子体験を実施しております。令和8年3月には保護者様に向けてペアレントトレーニング研修会と事業所体験を実施します。お話しをする機会だけでなく、保護者様同士が集まり、児童様の様子を見たり、一緒に体験して頂く機会を設けながらご家族の皆様と共に支援をしていけるよう努めます。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			運営規定や支援内容、利用者負担等は契約の際に保護者様へご説明しています。また、運営規定は事業所玄関に掲示しております。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			契約前の聞き取りにおいて、保護者様や児童様の意思をお聞きし、尊重しています。定期的にモニタリングを行い、児童や家族の意向をお聞きしています。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8			定期的に保護者様とモニタリングや相談援助を行い、支援目標や支援内容の説明を行い、同意を得ています。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			ご家族の方からのご相談は連絡帳や送迎時、お電話や面談時にて対応させて頂いています。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	8			例年、半年に一度のペースで保護者間同士の連携を目的に茶話会や事業所体験を実施しました。きょうだいの方も気軽にお越し頂き、一緒に参加しながら交流できるよう取り組んでいます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			保護者様からの苦情については管理者が対応しています。苦情内容を職員に周知し、改善に向けての話し合いの場を設けて対応しています。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8			毎月月間行事予定は利用希望表と一緒にHUGにて掲載しています。児童に向けてはイベントの概要を事業所内にも掲示し発信しています。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			個人情報の取り扱いには鍵付き書庫で保管しています。また、個人情報の書類を破棄する場合はシュレッダーにかけて破棄しています。ホームページ上の活動日記では個人が特定されないよう顔やお名前に星マークを付けて隠す加工を施し対応しています。
非常時等の対応	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			児童様には文字や絵をホワイトボードに記入し、視覚的にわかりやすく伝わるよう心掛けています。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8			例年、アート展を開催することにより地域に開かれた事業所運営に取り組んでいます。その他のイベントにおいても地域の方と交流できる機会を設け、実施しています。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			保護者様へは契約の際に重要事項に沿ってご説明しています。事業所でもマニュアルを策定し、様々な自体に備え訓練や研修を行っています。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			業務継続計画を策定し、計画を基に様々な発生状況を想定し訓練を実施しています。また必要な備蓄を備えております。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8			契約前の聞き取りにて、保護者様へ服薬や予防接種、てんかん発作等の状況の確認を行っております。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか。	8			契約前の聞き取りの際に保護者様へ児童様のアレルギーの有無等の確認を行っています。食物アレルギーの児童様については、アレルギー除去のおやつ等を依頼しております。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			些細なこどもでもヒヤリハットを作成し、職員間で周知、改善に取り組んでいます。安全管理のために様々な委員会も立ち上がり職員への研修や実践を行っています。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			契約の際に災害時や非常時の避難場所をお伝えしております。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8			・ヒヤリハットの内容を全員で共有します ・小さなこどもでもヒヤリハットを共有して、再発防止に努めています

53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8			虐待防止、身体拘束廃止の委員会担当職員から研修を実施し学ぶ機会を設けています。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8			保護者様には契約時にてやむを得ず身体拘束を行う場合があることを周知しています。どのような場合にやむを得ず身体拘束となるのかを具体的にご説明しながら計画に記載しています。